

常任委員会行政視察報告

総務企画委員会

◆視察月日 7月21日～23日

◆視察市 愛知県高浜市

愛知県犬山市

◆視察項目

事業仕分け
 労働事業ハード整備事業
 庁舎建設
 歴史を生かしたまちづくり

事業仕分け

高浜市は、市長のマニフェストに基づき、愛知県で初めて、政策シンクタンク「構想日本」の協力を得て、平成22年6月19、20日、高浜市中央公民館を会場に事業仕分けを実施した。行財政全体の再構築、事業の見える化、職員の意識改革などを目的とし、対象事業の選定は第三者を交えた事業仕分け委員会が行い、判定は無作為抽出による市民判定人が実施する。仕分け結果を受けての検討内容は公開で審議するなどの特徴がある。今後の継続については、今回の実施を踏まえ、費用対効果、手法等を検証し、市民の意見を聞きながら検討する予定となっている。

庁舎建設

犬山市では、昭和30年に建設された旧庁舎は行政機能が分散し、老朽化に伴う耐震上の問題や防災拠点としての役割などから、新庁舎建設が求められていた。平成8年から、職員による新庁舎建設調査・研究会や建設検討委員会、学識経験者、各種市民団体や市民公募委員による新庁舎建設事業推進協議会での検討を経て、新庁舎の建設に至った。建設に際しては、市民サービスの向上と新しいまちづくりを進める観点から行政・情報サービス及び防災拠点機能の導入とともに市民の交流の場として庁舎建設を目指した。延床面積9,754平方メートル、免震構造による鉄骨地上7階、地下1階で、建設事業費約31億円、21年10月に完成した。(鳥)



犬山市役所前にて

環境産業委員会

◆視察月日 7月27日～29日

◆視察市 京都府亀岡市

京都府綾部市

◆視察項目

集落営農への取り組み
 中心市街地活性化
 食育の取り組み
 商業活性化にぎわいづくり事業等

集落営農への取り組み

亀岡市は古くから京の穀倉地帯と形容され、稲作が盛んである。昭和30年に1町15カ村で合併し、旧町村単位で18町組織が作られ、その後行政主導で、その下に118の農家組合を設立し、情報伝達等を行っている。農業の現状は兼業農家が86%で、平均60アールの小規模農家が非常に多い。主力の農業従事者は60歳以上の割合が高く、本市と同様、農業の担い手不足は深刻化し、営農の法人化等を進めており、各農家の危機意識のほか、リーダーとそれを支える人材がいてこそ法人化までできた。自分たちの農村を守っていききたいの思いは日曜農家も持つっており、市としてはそれを集落の中にもとめていきたいと考えている、との説明であったが、本市の地域営農の考え方はさまざまな面で異なっているように思われた。

食育の取り組み

綾部市では学校給食の取り組みや保健事業の展開、地場産業の推進など、食育の取り組みを従来、教育・保健・農業等それぞれの分野で実施していたが、市民に十分浸透せず、平成20年に食に関するさまざまな団体が集結し、相互の連携を密にし、食育の普及を図ることを目的に綾部食育推進ネットワークを立ち上げた。行事事食等伝統食を次世代に残していくための料理冊子を製作、食や地域の産物に対する関心を高めるため市内12地区で「食育料理教室」を開催、最終的には平成21年3月「あやべ食育フェア」を開催し、食育の普及が図られた。現在は主に啓発活動に重点を置いている、との説明があった。食育の普及活動は参考になるとともに、一体化の取り組みの難しさを感じた。(穴山)



亀岡市役所前にて

※文教民生委員会、建設委員会の行政視察報告は次号に掲載します。